

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(23年4月) —依然高水準だが財インフレにピークアウト感

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数伸び率は7.0%

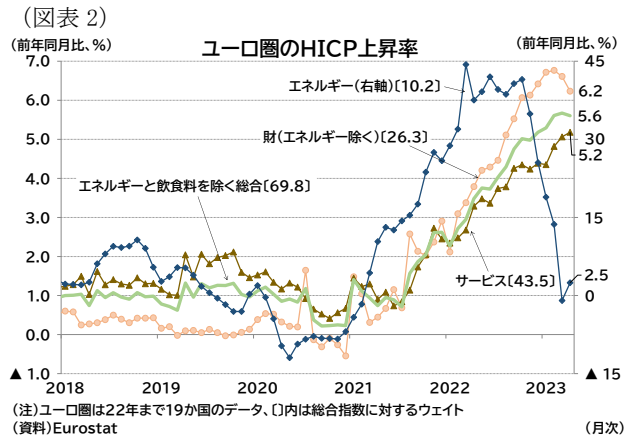
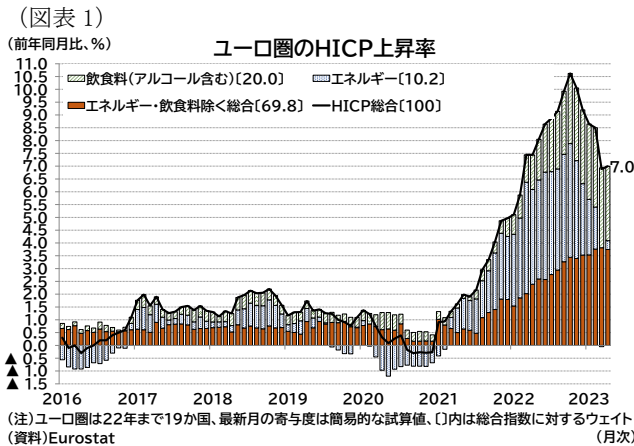
5月2日、欧州委員会統計局(Eurostat)は4月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は7.0%、市場予想¹(6.9%)を上回り、前月(6.9%)から加速した(図表1)
- ・前月比は0.7%、予想(0.7%)と一致し、前月(0.9%)から減速した

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は5.6%、予想(5.6%)と一致、前月(5.7%)から減速した(図表2)
- ・前月比は1.0%、前月(1.3%)から減速した



2. 結果の詳細: 財インフレにはピークアウト感

23年4月のHICP上昇率(前年同月比)は全体で7.0%となり、3月の6.9%からわずかに上昇した³。一方、「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」は5.6%となり、統計データ開始以来の最も高い伸び率だった3月(5.7%)からわずかに低下した。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

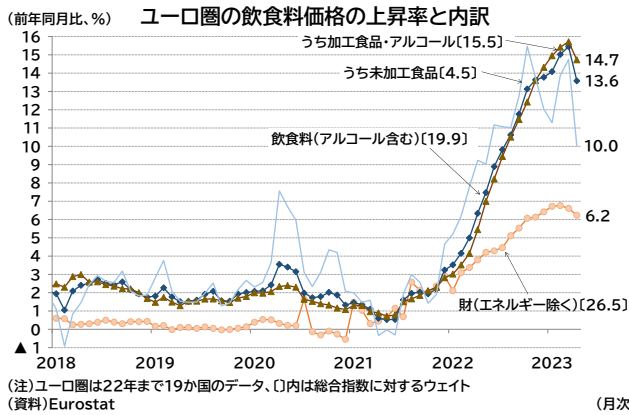
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

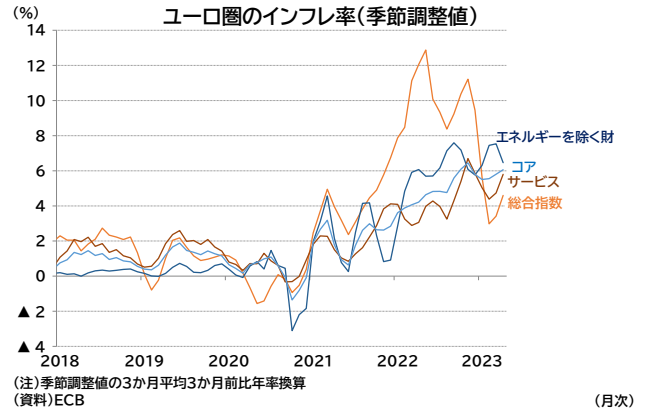
³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

（飲食料も除く）」が2月6.8%→3月6.6%→4月6.2%、「サービス」（エネルギーを除く）が2月4.8%→3月5.1%→4月5.2%となり、財は伸び率が低下したが、サービスの伸び率はやや上昇した（前掲図表2）。前年同月比寄与度は、「財」が1.54%ポイント程度、「サービス」が2.18%ポイント程度と見られる。コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で2月13.7%→3月▲0.9%→4月2.5%となった。3月のマイナスから再びプラスの伸び率となったものの、低い伸び率にとどまった。4月の前月比は▲0.8%だった。エネルギーの前年同月比寄与度は0.35%ポイント程度（3月は▲0.05%ポイント）となった（前掲図表1）。

（図表3）



（図表4）

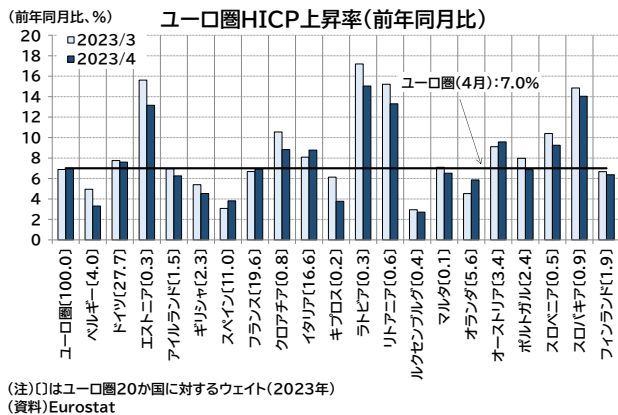


「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で13.6%（3月15.5%）と大幅に低下した。飲食料のうち加工食品の伸び率は14.7%（3月15.7%）、未加工食品は10.0%（3月14.7%）といずれも減速、特に未加工食品の減速幅が大きかった（図表3）。飲食料の前年同月比寄与度は2.90%ポイント程度（3月は3.12%ポイント）と見られる。

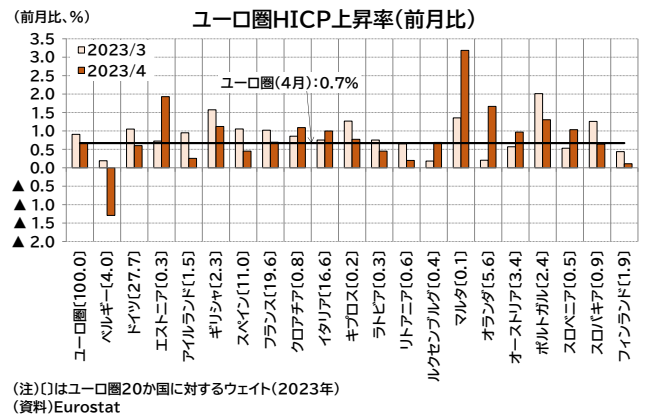
総じて見ると、4月はエネルギー以外の財・サービス・飲食料物価が上昇をけん引し、インフレ圧力は依然として根強い。ただし、財は2か月連続で前年比の伸びが鈍化、飲食料も未加工食品中心に大幅に伸びが鈍化するなど、ピークアウトの兆しも見られる。

なお、物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が4.6%、エネルギーを除く財、サービス、コアはそれぞれ6%前後となっており、いずれも依然として高い水準となっている（図表4）。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中15か国が減速、5か国が加速した（図表5）。前月比では19か国中がプラスの伸び率で、ベルギーのみマイナスの伸び率となった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。